

家庭における人権教育

家庭における人権教育の推進

子ども一人ひとりがかげがえのない存在として尊重し、個性を生かすとともに、他人への思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育むことが大切です。

★愛情と厳しさをもって育てましょう

ささいなことでも「できた」ことや努力したことなど、子どものよさを見つけ、愛情をもって大いにほめましょう。そして、してはいけないことをしたときは厳しさも必要です。



「ほめることの効果」(P14)
「子育てで大事なことは、さじ加減」(P16)もご覧ください。

★子どもの話を聞きましょう

大人が子どもの話に耳を傾けることは、子どもを認めることにつながります。子どもは愛情を感じ、家庭の中での存在感を実感していきます。



「話の聞き方で心をつなぐ」(P12)
「話を聞くときのポイント」(P13)もご覧ください。

★日常の生活を通して身につけさせましょう

家庭において、しつけや道徳観、正義感や人を思いやる心などを日常の生活を通して子どもに身につけさせましょう。

また、子どもが学んだことを共通の話題にするなど、学びを共有していくことも大切です。



「子どもと一緒に、いじめについて考えてみましょう」(P17)もご覧ください。



人を差別するような子にはなってほしくない

親は、子どもがいじめに加わったり、他人を差別し傷つけていることに気づいたときには、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈であれこれ言うより、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、弱い者をいじめたり差別したりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを喜ぶことに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としてのほんとうの気持ちを伝える努力をしましょう。

また、まず親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを、子どもたちに示していくことが大切です。



子どもは親の姿を見て学んでいく

親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心の基となる大切なものです。まず親が自らの祖父母を大切に作る姿を見せることを心がけましょう。

大人たちは、自らの親への接し方や、思いやりのある社会のために何が重要かについて、子ども自身から問われているのだということを考えましょう。



いじめは人間として恥ずかしい行いだ

いじめは、力の弱い子どもや、まじめに努力する子ども、周りに安易に流されないため「異質」とみなされた子どもなどを標的にする卑怯な行いです。悪いのはいじめる子どもであって、「いじめられる側にもそれなりの理由がある」などということは全くの間違いです。

いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみ痛みは深刻であることを理解させ、いじめることは、人間として決して許されないことであり、いじめをはやし立てたり傍観したりすることも同じである、ということを家庭の中できちんと話し合ひましょう。そして、自分の子どもがいじめをしているとわかったら、必ずすぐにやめさせてください。

また、いじめる子の中には、親から暴力や強いプレッシャーを受けるなど、家庭でも学校でも居場所がない子どもが多いと言われます。子どもが楽しめるものを見つけ、心が満たされるように配慮するなど、いじめをしない心の環境づくりをしましょう。